

## カリキュラム（計画） 外国人児童生徒教育概論 I

作成者 氏名：松井 千代

○養成・研修 / ○基礎・専門・支援員（該当するものに○）

★参照したモデルプログラム NO.（報告書 pp. ） 下線：内容・項目（pp.72-76）

日時・場所	2018年7月23日			
実施団体・機関	愛知淑徳大学			
研修・授業名	外国人児童生徒教育概論 I			
受講者	・人数： 13名 ・学年 学部 2年生 11名 4年生 2名 ・受講者の立場 大学生			
演題・テーマ☆	事例を通して、 <u>児童の心理や周囲との適応</u> 、教師の異文化理解や教師の役割について考察する			
到達目標	外国人児童生徒をめぐる学校で起こりうる問題等を分析し、解決策を考え議論する			
活動展開（分）	★	形態	留意点	参考資料
<b>導入：</b> フォトランゲージ(10分) ・外国にルーツを持つ児童(ヒジャブを被る女児)の写真を見せ、写真からどのような児童かを読み取らせる活動を行う。 ・予想される学生の考え (3年生くらい、中央アジア近辺出身の児童、イスラム教、日本語はあまり話せない)	⑫	一斉  ペア 共有  個人 発表	・写真は個人が特定できないようピントがぼけているものを使用。 ・女児の背景)撮影当時5年生、父バングラデシュ人、母日本人で日本国籍を持つ。日本生まれ。 両親がイスラム教に心酔。日常会話に問題ないが支援対象児童。 ・学生の持つステレオタイプの考え方に気づかせる ・イスラム教についても触れる	・拡大した元担当児童の写真  ・モデルプログラム報告書 231p.
<b>展開：</b> 事例研究 (50分) 1 外国人児童生徒の事例から文化適応について知る 事例 A 忘れ物の多い児童 事例 B ピアスをつけ登校  2解決方法の検討 教育的介入を考える		ペア (グループ で 話す	・事例から話し合う 段階①問題を分析する 段階②背景を考える 段階③自分なら、日本人の子供ならどうしているのか考える ・1の発表から話し合う 段階④どのような支援ができるか	・モデルプログラム報告書 228p. ・齋藤ひろみ編(2011)『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』凡人社

